

津波避難シミュレーション説明資料

(1) 目的

- ・安全で確実な避難を可能とするためには、避難シミュレーションを行い、避難時の安全性を「定量的に示す」ことが重要となる。津波来襲時の町内への津波の広がり方や住民の避難状況をシミュレーションし、津波に対し必要となる取り組みを住民自らが考え、議論するための基礎資料とする。

(2) 設定条件

- ① 対象津波は、南海トラフのレベル2（被害が最悪となる）のケース
- ② 避難者が浸水深1cmに巻き込まれた時点で被災
- ③ 避難速度は
 - 【現状】 健常者が1.0m/s、避難行動要支援者が0.5 m/s（国の基準）
 - 【対策】 防災訓練や防災教育等の効果により移動速度が速くなったと想定
- ④ 避難行動要支援者の定義
 - ・0～4歳の人数に2を乗じた人数+65歳以上の人数+障害者の人数
- ⑤ 避難開始時刻
 - 【現状】 地震発生5分後（揺れがおさまったら避難する。）
 - 【対策】 地震発生3分後（揺れていても動けるようになったら避難する。）
- ⑥ 避難行動については、避難開始地点から直近の避難先へ避難とする。
- ⑦ 津波避難ビル・津波避難タワーは、施設入口から避難階までの移動時間として1分間を考慮
- ⑧ 避難は夜間人口をベースに実施
- ⑨ 避難者は、人口統計表、観光客を考慮して設定
 - ・松崎地区のみ住民だけでなく、夏期の観光客を考慮
- ⑩ 今後整備が予定される津波避難タワー等については、具体的な場所が選定できていないため、対策として考慮していない。